

第9編 被害想定結果のまとめ

表 9-1 に各地震における主な被害予測結果総括表を示した。
前項までの被害予測結果を予測項目ごとに以下にまとめる。

9.1 地震動・液状化・急傾斜地崩壊

今回想定した地震は、東海地震・東南海地震・南海地震同時発生の場合で、和歌山県沖を破壊開始点としている。設定マグニチュードはM=8.7である。

本検討による田原市における地震動予測結果は、震源域が直下にあることから、非常に強い地震動が予測され、震度は一部を除き6弱から6強と予測される。

液状化については、その発生箇所が低地および埋立地に限定される。

また、これらの強い地震動により急傾斜地崩壊が発生する危険性がある。急傾斜地崩壊は、田原市の震度が一部を除き6弱から6強となっていることから、崩壊危険性が高い急傾斜地の崩壊が8割を超えている。

9.2 津波

初期水位が満潮位で堤防がない場合は、表浜では赤羽根港、三河湾では福江港及び田原湾の周辺とそこに流れる天白川、免々田川、汐川などの河川沿いの低地にも浸水があると予測された。

堤防が健全の場合は、赤羽根港、福江港、田原湾の一部で浸水する程度であった。

9.3 建物被害および地震火災

今回の市全体の建物被害予測結果は、自治体の罹災証明に係わる自治体判定基準の全壊棟数で概ね五千四百棟、構造的な被災である大破棟数で概ね二千棟と多数の被害が予測された。

次に地震火災については、建物被害による火災が発生したが、消防署・消防団の消火活動により、延焼火災までには至らなかった。

津波の浸水による建物被害は、初期潮位が満潮位で堤防が健全の場合では福江港や田原湾の汐川の標高の低い地域で浸水建物が発生する。堤防がないとした場合は津波の浸水によって全壊が五十棟程度、半壊が七百棟程度、床上および床下浸水はあわせて四千八百棟程度発生する。

なお、平成23年3月11日の東日本大震災では、津波で流された船やタンク、建物等から火災が多数発生し、延焼火災となった。津波の浸水が予測される赤羽根港、福江港、田原湾においても、津波火災が発生する可能性があると考えられる。

9.4 人的被害

揺れによる建物被害、火災、斜面崩壊、津波によって、全市で死者・負傷者が約二千三百人(冬早朝5時)と想定される。

